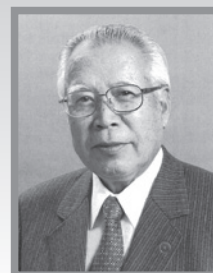


追悼



故 千葉憲雄 会員 (20 期)

2016 年 6 月 25 日逝去・80 歳

1987 年度 東弁副会長

愛深き高潔の士

会員 三澤 麻衣子 (57 期)

千葉憲雄先生は20期、私より40年近くも上の大先輩で、私の事務所入所以来11年間、事件やお酒の席などを通じて、沢山の教えを受けました。

大学時代から真面目で、弁論部やボランティア仲間から牧師さんと呼ばれ、敬愛されていたそうです。

弁護士となり、第一法律事務所に入所されました。平成28年10月4日、先生の偲ぶ会が執り行われ約200名もの沢山の方が集いました。その偲ぶ会の文集に先生の生前の文章の他、沢山の方から原稿が寄せられました。文集を読んで、先生が、弁護士登録直後に業務上過失致死事件で無罪判決を獲得されたのははじめ数々の成果を挙げられてきていることを知りました。私が、先生から直接うかがったものもあり、その一つ、精神発達障害者に関する無権代理事件での最高裁逆転勝訴判決は、禁治産制度の問題点を抉り出し、成年後見制度の導入、任意後見に関する法律の誕生を導きました。先生の諦めない信念が、最高裁、法律まで動かしたものだと思います。

晩年に関わられた医療事故裁判は予測不能の事故との鑑定がある困難な事案でしたが、先生は、その鑑定に疑問を持ち、2人の医師に断られても諦めず、3人目の医師の協力で鑑定を覆し、医師の過失を認めさせ、看護記録の信用性も反対尋問で潰し、術後管理の不十分さも認定させ、1審で請求満額7600万円の勝訴判決、2審で和解解決しました。この事件に関わられたとき70歳を超えられていました。

そんな熱い事件処理とは裏腹に、いつも仕立ての良いスーツで背筋を伸ばし颯爽と歩かれていました。中学生からテニス、弁護士になってからゴルフも始め、持ち前の運動神経で、いずれも好成績を残され、公正なプレーの尊重、相手への尊敬やマナーといったスポーツマンシップが先生のお人柄に深く影響されて

いるのでしょう。ユーモアを愛し、日本酒、ワインをお好みで、カラオケも玄人レベルでした。

奥様やご家族を深く愛し、先生の偲ぶ会の文集での奥様の原稿は、5頁たっぷり夫への愛と尊敬が、3人のお子様たちの原稿も、父を尊敬し、愛情豊なご家庭であることが綴られていました。

今、事務所の遺品を整理していますが、日本酒やワインの本はもちろん、絵画や詩の本の他、児童文学や、能と狂言、生命と地球に関する本、小話やジョークの本、人間の心の持ち方に関する本が沢山あり、そんな造詣の深さが事件処理や周囲の人との豊かなお付き合いに、影響しているのだと思います。

体調を崩し仕事を半年休んで復帰した私に先生は毎日お昼をご馳走してくれました。お昼の間、私の体調には一切触れず、ただ時折、無理はダメだよ、と。先生の大きな温かさに、あらためて涙がでます。

先生は、弁護士会でも活躍され、数々の重責を担われ、昭和62年には東弁副会長を務められました。副会長終了後に寄せた期成会ニュースの原稿では、弁護士の不祥事の多さを嘆き、弁護士自治と司法の民主化を実現するため、弁護士への信頼を守り、そのために弁護士の経済的基盤の確立が必要だと述べられており、先生の先見の明に驚くばかりです。

先生の最後の大仕事は、あんしん財団の理事長として財団の健全化に尽力されたことです。先生は、懲戒請求、損害賠償請求訴訟、職務執行停止保全処分申立などの数々の攻撃を受けても、断固として闘い、3年間で見事に正義の実現を果たしました。

愛深き高潔の士、の名にふさわしい先生、これからも私たちの心の中で、正しい方への道しるべを示してくれることと思います。

千葉先生、本当にありがとうございました。